



説教	御名の栄光を主に帰せよ	…… 真田 泉 …… 1
教会の課題	笑りのときを喜んで - 在日大韓基督教会との 宣教協約締結20周年記念集会に出席して-	…… 八田 牧人 …… 2
■	旧約聖書に聴く「コヘレト塾で」(一)	…… 片野安久利 …… 3
■	信仰問答を学ぶ「ハイデルベルグ信仰問答」(一)	…… 登家 勝也 …… 4
目次	今、教会を考える③ わたしの教会観 使徒信条「聖徒の交わりを信ず」	…… 稲葉 一 …… 5
	み言葉に照らされて 何事にも時がある - 厳しい現実にも勝る喜びと感謝 -	…… 浅倉 瑞恵 …… 6
■	地域からのたより 兵庫地区の交わり	…… 中山美知子 …… 6
	こいのにあ 創立90周年を迎えて	…… 吉田 恵 …… 7
寄稿	かつての台湾と朝鮮における 宣教についての二つの研究から	…… 鈴木 和哉 …… 7
	大会諸委員一覧 教会ニュース	…………… 8



## 御名の栄光を主に帰せよ

国々にふれて言え、主こそ王と。世界は固く据えられ、決して揺らぐことがない。  
主は諸国の民を公平に裁かれる。(10節) (詩編96編1-13節)

さな だ いずみ  
真 田 泉

宗教改革者ジャン・カルヴァンが、かつて追放されたジュネーブに戻る前、不安の中で書いた手紙に「神の栄光のために、神の利益となることだけを行う。それ以外の仕方では考えたり行ったりすることは望みがない」と書かれています。全てを神の栄光のために。それがカルヴァンの神学、生涯の特徴となり、後代の人々に大きな影響を与えます。「人の主な目的は何ですか。人の主な目的は神の栄光を表し、神を永遠に喜ぶことです」(ウェストミンスター小教理問答)。これがこの年も私たちの課題なのです。

詩編96編はバビロン捕囚を経験した神の民の礼拝の賛美の歌です。捕囚は旧約の歴史の中で最悪の出来事でした。捕囚によって、エルサレムからバビロンに移された人々は、力を勝ち誇っているようなバビロニアの「神々」に囲まれて、カオス、すなわち混沌と無秩序、意味のなさの中へと陥り、苦しみました。捕囚は旧約聖書の歴史の中で最大の挫折、最大の失敗、最大の試練、最も深い絶望の時でした。

けれども、神の新しい御業が起きていることを知らされました。天地を造り、かつてエジプトから解放してくださった「主こそ王」であり、今もなお全ての人々、全被造物を支配しておられるのです。この偉大な王の前に他のどんな「神々」も空しい偶像であり、価値のないことを知らされたのです。

私たちも神に招かれる礼拝で、神の言葉を通して、私たちの苦しみと悲しみ、罪と死を担って死なれ復活された神の御子イエス・キリストの現臨に出会います。この主イエス・キリストが全てを支配し、「栄光と輝き」、「聖なる輝きに満ち」て、共にいてくださっています。

この世界は何があっても罪と死の力に勝利されたキリストのご支配の中にあります。私たちはキリストに贖われ、赦され、その勝利の行進に連なっています。罪と死に支配されているとしか思えない時にも、因果法則や他の諸力ではなく、愛に満ちたキリストに確かに捕らえられ、キリストのものとして支えられ導かれているからこそ、これを確かな拠り所とし、慰めとして歩いていくことができるのです。

この主の恵みを信じて、悔い改め、受け入れた人は、新しい命を得て、死者の中から生き返り、神の憐れみの器とされます。「供え物を携えて神の庭に入り、聖なる輝きに満ちる主にひれ伏せ」(96:8-9)。罪の中から立ち上がり、自分をささげ、恵みを分かち合い、神と人に仕え、共に神をたたえる者に変えられていきます。それが礼拝で経験する聖霊による新生の恵みです。

そして「地を裁くために来られる」主に希望をもち、主をたたえつつ遣わされ、各々の場で神の働きに加えられて、仕えていきます。主は終わりの時に公平をもって裁かれます。一つ一つの命・被造物を、神の御心が成就される仕方です。この世界と私たちの終わりには大きな希望があるのです。この時に向けて、主は日々新しい御業を私たちに行われています。

主を喜び祝い、たたえることが1年の力の源です。礼拝が1年の中心であり、主をたたえる日々の歩みを支え、生かし、造り出していきます。この1年、順境の時も、逆境の時も、礼拝する神の民として、共に復活の主の恵みに生かされ、御名の栄光をたたえて歩いていきましょう。(東京主僕教会牧師)